

# 農林水産大臣賞受賞

地域を愛する心を育てるむらづくり

かねざわ

## 受賞者 金沢たたらの里を愛する会 (埼玉県秩父郡皆野町)

### ■ 地域の沿革と概要

金沢地区は、古代人の集落や古墳が点在し、先住民や豪族が居住していたとされている皆野町の北西部に位置する。旧金沢村では、「たたら製鉄」(日本古来の製鉄法)が行われていたと伝えられていることから、金沢地区は「たたらの里」と呼ばれている。かつて中山道から秩父へ入る玄関口の宿場としてにぎわった当地域は、現在は少ない耕地と山間地をいかし、シイタケ栽培が行われている。春はツツジとカタクリ、初夏にはアジサイとヘメロカリス、冬はロウバイなど多くの花が地域を彩り、訪れる観光客を和ませる景観のすばらしい集落である。

秩父地域の代表的な民謡「秩父音頭」は、この皆野町が発祥地とされ、毎年合歓の盆(8月14日)に開催される秩父音頭まつりには、60団体を超える連が踊りの輪を作り、人々のこころにふるさとを呼び覚ましている。

### ■ むらづくりの概要

#### 1. 地区の特色

皆野町は、埼玉県の北西、秩父郡の北東に位置し、標高は町の中心街で海拔160m、最も高い城峯山頂で1,038mと、町の大部分は林野で占められている。町の中央を南北に国道140号が縦断しているほか、皆野寄居バイパスや秩父鉄道が走って秩父地域の交通の要所となっており、都心からは80km圏内、鉄道利用で東京まで約2時間という立地にある。

第1図 位置図



注:白地図KenMapの地図画像を編集

第1表 地区の概要

事項	内 容
地区の規模	旧市町村単位の集団等
地区の性格	地縁的な集団等
農家率 (内訳)	22.4%
	総世帯数 161戸
	総農家数 36戸
専兼別農家数 (内訳)	
	専業農家 6戸
	1種兼農家 2戸
	2種兼農家 4戸
農用地の状況 (内訳)	
	耕地計 4.8ha
	田 0.6ha
	畠 4.2ha
	耕地率 0.4%
	農家一戸当たり耕地面積 0.1ha

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

#### ア 地域の将来を考える「金沢たたらの里を愛する会」の設立

金沢地域の出牛区は、200年の歴史を誇る「出牛人形淨瑠璃」の発祥地とされ、同地区の一部住民により保存・継承活動が行われてきた。このような中、地域住民の「たたらの里の良さを地域外の住民に知って欲しい」、「地域全体で人形淨瑠璃の保存・伝承をしたい」との思いから、地元有志の話し合いを経て、伝統文化の継承と地域の景観維持を目的とする地域全戸を会員とした「金沢たたらの里を愛する会」(以下「愛する会」という。)が平成8年9月に設立された。



写真1 たたらの里（金沢地区）

#### イ 伝承の味を継承する「たたらの里加工センター」の設置

愛する会では、当地域の伝統食である秩父在来の「粉用とうもろこし」(以下「もろこし」という。)を混ぜ込んだ団子、まんじゅう等の商品化に向け、平成18年に町の事業を活用してJAの支店跡を「たたらの里加工センター」(以下「加工センター」という。)に改裝しており、地元の女性を中心に、もろこしまんじゅう、もろこしかりんとう、もろこしだんごなどの農産加工品の製造及び販売が行われている。



写真2 たたらの里加工センターと加工品

#### ウ 次代の子供たちに金沢地域の伝統を継承

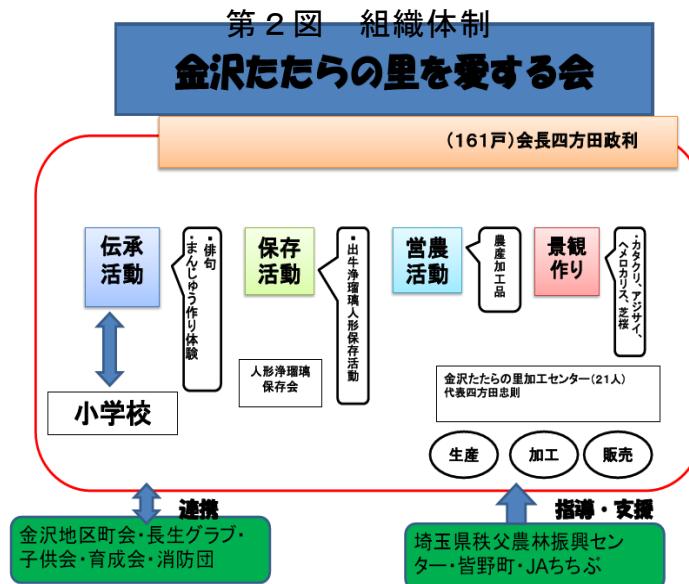
地域を愛する心を育てる目的で、子供達、子供達の親世代、さらにその親世代の三世代がともに参加する地域交流の場として、地元の小学校の児童を対象にした人形淨瑠璃の上演、つつじ祭りでの紙飛行機コンテストや金沢小学校校歌の齊唱、子供向けの俳句会やまんじゅう作り講座の開催などを地元小学校と連携しながら企画・運営している。



写真3 人形淨瑠璃に触れる

## (2) むらづくりの組織体制、構成員の状況

愛する会は、161戸の会員で構成され、会長、3名の副会長、10名の理事兼地区役員が中心となり、地域文化の伝承活動、保存活動、景観作り活動、伝統食の加工販売を行う営農活動を行っている。



## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

愛する会では、金沢地域の自然を愛し、心のふるさとづくりに向けた活動を行っており、地域の遊休農地を借り受けてもろこし栽培を復活させ、地域伝統の味を継承する商品の原料としている。また、地域の沿道、耕作放棄地及び山間地に植栽した季節の花の肥培管理の共同作業、満開時の花を愛する会の開催等を通じて地域住民の絆の醸成や地域内の耕作放棄地の解消に取り組むとともに、ツツジ、アジサイ、ヘメロカリスなどの植栽を行って訪れる人の心を和ませている。

### 2. 農業面における特徴

#### (1) 景観づくりが農産加工活動へ

愛する会が取り組んだアジサイ、ヘメロカリスなどの植栽箇所は、皆野町が開催する「花めぐりスタンプラリー」イベントの設置場所に指定され、観光スポットとして地域外から観光客が訪れるようになった。

また、愛する会では、訪れる観光客に地域の伝統食を提供してたたらの里の良さを知ってもらうため、伝統食の商品化と生産体制の整備を行った。その結果、遊休農地の解消及び鳥獣被害の減少、住民の所得向上並びに女性の雇用機会の創造が行われている。



写真4 咲き誇るヘメロカリス

## （2）遊休農地の解消

伝統食の加工・販売のために原料となるもろこしの一定量の確保が必要となつたことから、愛する会では地域内の遊休農地を借り受けて共同で栽培に取り組むこととした。平成23年から借り受けた遊休農地70aに獣害対策用の柵を設置し、40aでもろこしの栽培に取り組んでいる。この取組をきっかけとして、労働力減少による遊休農地を愛する会で守っていこうという気運が生まれている。



写真5 もろこしの収穫

## （3）女性の活躍する加工施設の設置

加工センターの設置は、地域の女性にとって伝統食の製造・販売という活躍の場の提供につながっており、雇用機会の創造及び所得の向上を通じ、地域経済の活性化の原動力になっている。また、製造した伝統食を地域外のイベント等で販売することで、たたらの里のPR活動や都市住民との交流につながっている。



写真6 伝統食の商品化に向けて

## 3. 生活・環境整備面における特徴

### （1）親子、家族で守る地域の自然と景観

愛する会では、花のある美しい景観づくりとして地域全体で庭先や沿道に季節ごとの花の植栽を行っている。小学校と連携し、学校行事として花の管理作業を行うことによって、親子や家族での活動を促進し、郷土や自然を愛する気持ちを醸成している。

### （2）女性が元気なむらづくり

植栽した季節の花を植栽し、皆野町で開催される「花めぐりスタンプラリー」を誘致したにより、地域が観光スポットとして脚光を浴び、訪れる観光客や写真家が増加した。これを励みに女性による農産加工活動の取組が更に活発となり、地域の活性化が進んでいる。また、加工センターは女性農業者の活躍する場であると同時に愛する会の活動拠点となっており、女性が力を発揮して地域が一丸となった元気なむらづくり活動が展開されている。

第3表 むらづくりに関する年表

年 度	概 要
平成8年	・金沢たたらの里を愛する会設立
平成9年	・人形浄瑠璃の復活 ・小学校と連携（俳句講習会、まんじゅう体験教室、人形浄瑠璃の上演） ・ヘメロカリス、つつじ、あじさいの植栽を開始
平成10年	・萩神社のつつじ祭に参加（人形浄瑠璃の上演、俳句集作成・配布） ※以降毎年参加
平成16年	・秩父在来種の「粉用とうもろこし」の栽培を開始 ・粉用とうもろこしを活用した加工品の製造・販売を開始
平成17年	・皆野町スタンプラリーのスタンプ場所の設置 ※以降毎年設置
平成18年	・たたらの里加工センターの設置及び運用開始
平成20年	・彩の国教育の日実施報告書に「人、地域とのふれあい」の事例として掲載
平成22年	・第1回埼玉農業大賞の地域貢献部門で優秀賞を受賞 ・花まつりの開催 ※以降毎年開催
平成23年	・とうもろこし体験消費者交流会の開催 ※以降毎年開催